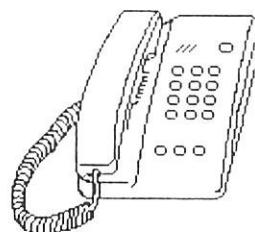
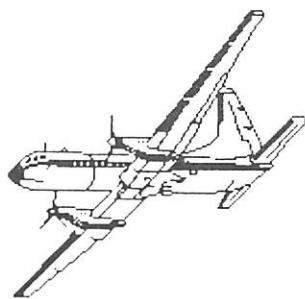


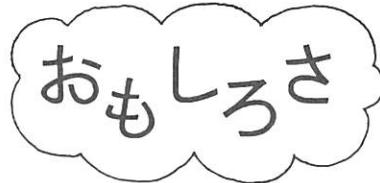
第5章

伝えましょう



おもしろ郵便

呼称編



『おもしろ郵便』という用語は、郵便局関係で正式に用いられている言葉ではありません。

(『ぼすたるガイド』にもこの言葉は出てきません。普通は、『第1種定形外郵便物』と呼ぶようです。)

校区にあるA郵便局の窓口の方は、

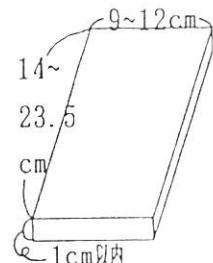
「あ～ おもしろ郵便のことですね…」と何気なく使っていらしゃいました。

つまり、

「正式用語ではないが、十分通用する言葉である」と言えるでしょう。



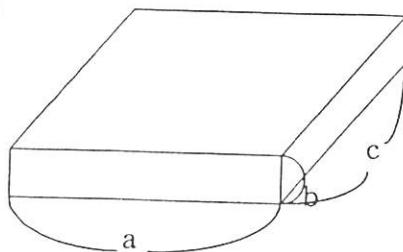
もし、完成した『おもしろ郵便』が、右のようなサイズであれば、『第1種定形外郵便物』として送ることもできるのです。（お安くなります！）



この場合の料金の違い

(50gまで) 定形
定形外

72円
120円



a (長さ) = 60 cm

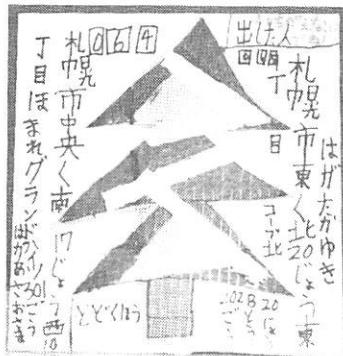
a + b + c = 90 cm

このサイズをこえるものは、
『ゆうパック（郵便小包）』
扱いとなります！

重さと料金



450 g もある子どもの郵便



定形外	ゆうパック
50 g まで	120 円
100	175
250	250
500	360
1 kg まで	670
2	930

(平成 4 年 9 月現在)

(約 30 cm × 30 cm 木を使っています)

もしも 500 g より重くなったら、
『ゆうパック』扱いのほうが安く
なるのです。

安く送る方法を子どもと一緒に
探るのもおもしろいですよ！

つまり

- ①『第一種定形郵便物』
 - ②『第一種定形外郵便物』
 - ③『ゆうパック』
- 大きさ・重さ・形などで呼
び方も変わるので！

牛乳パックの変身

〈おもしろはがき〉

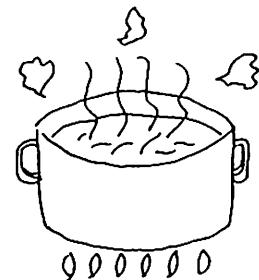
生活科の学習には、牛乳パックを利用して遊んだり、生活に役立つものを作ったりするという活動があります。ここではその発展として、パックを変身させた「はがき」作りに挑戦してみましょう。

準備するもの

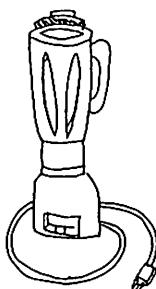
紙パック・鍋・コンロ・ボールまたは洗面器・ミキサー・カップ・でんぶんまたはコーンスターク・はがき大のすき杖と目の小さな網・はがきを乗せる板・タオル・アイロン・新聞紙・さらし（古くなつたハンカチなど）

① パルプを作る

- (ア) 牛乳パックを洗って乾かす。
- (イ) パックのまわりについているラミネートをはがすために、真水を入れた鍋で20分程度煮る。
- (ウ) 煮終わった紙パックを軽く水で冷やしてから、両面のラミネートをていねいにはがす。



② ミキサーにかける



- (ア) できたパルプをミキサーしやすくするため小さくちぎる。
- (イ) 8分目程水を入れたミキサーに小さくちぎったパルプを入れ、2分ぐらいミキサーする。仕上がりをパリッとさせるため、指先につく程度のでんぶんを加える。

※ミキサーの大きさによってパルプの分量を調整。分量は、ミキサーの音で判断する。パルプを入れすぎた場合には水をたす。

③ 紙をすく

(ア) 平らなおけに水を張り、すき枠をおく。(水の分量は、木枠より低く網に水がひたるくらい。)

(イ) ミキサーしたパルプを木枠に注ぎ込む。(パルプの量で厚さが決定)
※この時、絵の具をたらすと自分の好みの色をつけることができる。

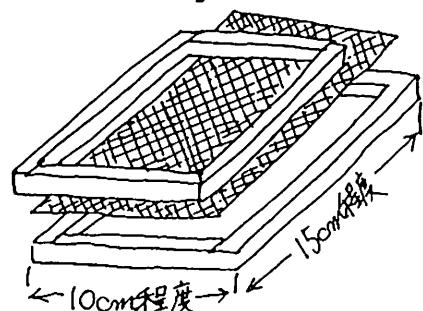
※押し花・折り紙などをおいてパルプのうわ水をかけると模様になる。

(ウ) すき枠を持ち上げ、水を切ってから木枠をはずす。手のひらに網をのせる。

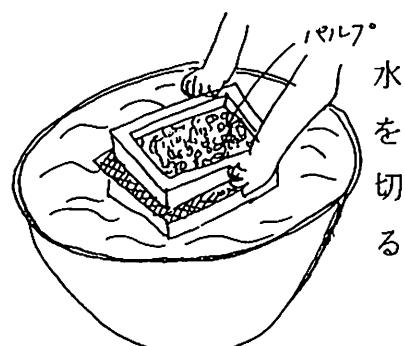
(エ) 網にさらし布の半面をのせ、水を切り、そっと網をはずす。もう半分の布をかけ、サンドイッチの状態にする。

(オ) パルプを板にのせ、タオルをかけて水分を吸収させる。

すき枠 パルプを注ぐ



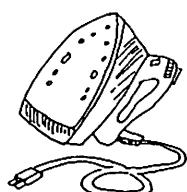
- ・工作用10mm角材で作成できる
- ・道栄紙業KKでも販売



④ アイロンで乾燥させる

(アイロンの目盛りを高温に設定)

火傷に注意!!



新聞紙の上にタオルにはさんだまま置く。両手で上から押さえつけるようにアイロンをかける。何度も新聞紙を換えると早く乾く。

これで できあがり

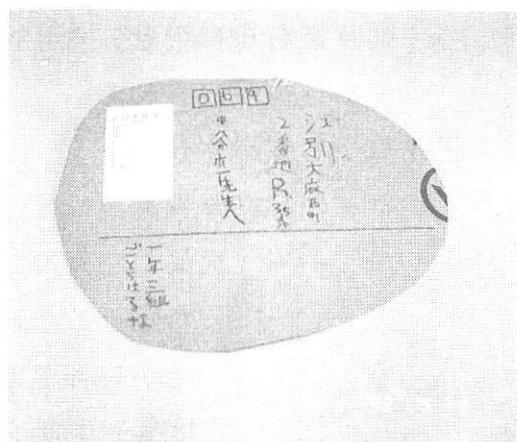
子どもからの面白郵便

生活科を体験している子どもからの暑中見舞いの一部です。平成元年からの札幌市での移行期間で体験した子どもも現在は中学年です。そして、現在の子どもからも楽しい暑中見舞いがいくつか届きました。単元として学習していなくても、担任としておもしろい郵便を子どもに送ってあげるというきっかけから子どもの意欲が生まれ、活動に火がつきます。もちろん家庭の理解と協力も大切なことです。



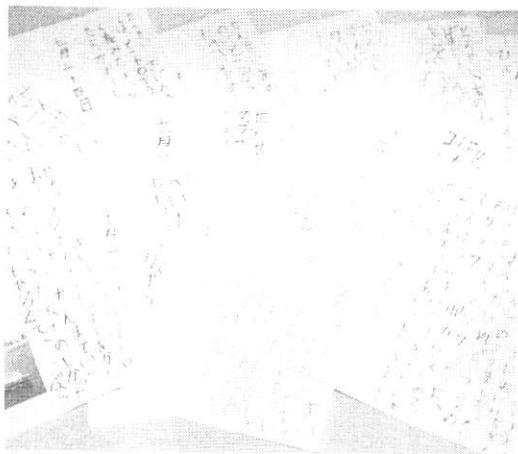
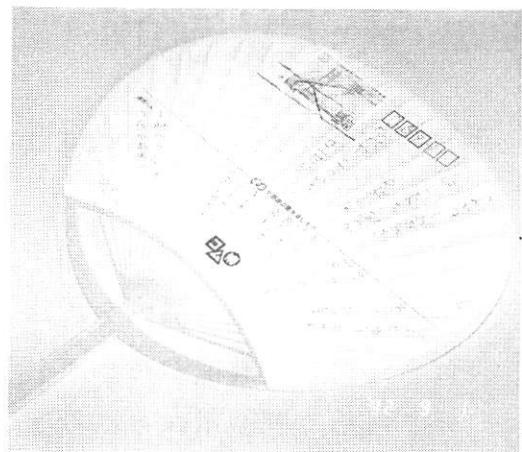
- ・この子どもは現在4年生です。毎年、楽しい暑中見舞いと年賀状が送られて来ます。
- ・今年は、小包の形で中にパズルになった手紙が入っていました。
- ・昨年の暑中見舞いは、『砂川子どもの国』から届いた木の板のはがきでした。

- ・『夏をイメージするものを10こノートにかきなさい』という家庭学習が印象に残ったようです。ダンボールをすいかに加工して使い始めた絵の具で楽しそうに作っていたとのことです。（1年生）



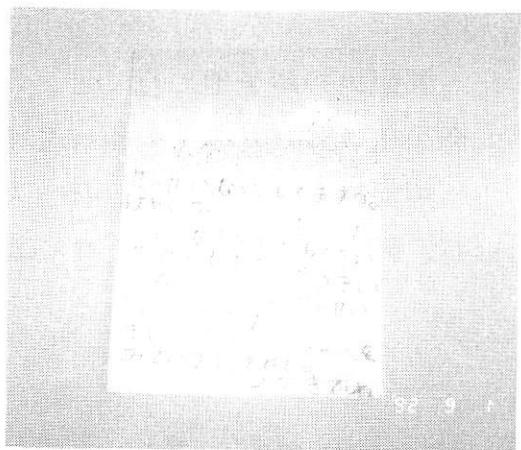
- ・共働きの家庭で、普段は5時まで学校の児童館にいます。夏休みに、家族で出かけるのを楽しみにしていました。

(1年生)



- ・絵はがきを送ってくれたのですが、夏休みの初日に担任の車の窓にメモがテープで貼られていました。
- ・素直に自分のおもいを伝えることを認めて『ありがとう』というと、しばらく手紙魔になりました。 (1年生)

・この子どもは、なんと夏休みにはがきを12枚もくれました。
・まだ、家庭の指導の強さを感じますが、学級の中で『ありがとう』というと、とってもうれしそうでした。 (1年生)



失敗談

手紙の返事をもらって活動にはずみを！

郵便单元で、学習発表会をきっかけに実際に郵便を利用して手紙やはがきを出す活動を設定しました。子どもと一緒に郵便局に行って料金や郵便のルールを学びました。

さっそく郵便ポストに投函。

「先生！いとこからお返事がきました。」

「幼稚園の友達から絵はがきがとどきました。」

「おじいちゃんから、電話がきて『ありがとう』って。」

「ぼくは……。」

相手先から返事が届くような手立てが大切な？

変形郵便

郵便局や観光地に行くと、いろいろな『おもしろ郵便』の例や商品化されたものを見かけます。

郵便局の人の話では、ほとんどの形、材質はよいとのことですが、糊付けのしっかりしていないものなどは困ること……。